
パーソン・センタード・ケアミニ勉強会と 認知症ケアマッピング（DCM）基礎研修 説明会のお知らせ

パーソン・センタード・ケア を知りたい！とお考えの方に

パーソン・センタード・ケアの理念や
DCM について勉強したい方、これから
基礎研修を受講しようと考えている方、
高齢者施設や病院への導入を検討して
いる方を対象に、パーソン・センタ
ード・ケアの概要、DCM の高齢者施設
への導入事例などをご紹介します。



ミニ勉強会と説明会の内容

- ・パーソン・センタード・ケアとは
- ・認知症ケアマッピング（DCM）とは
- ・パーソン・センタード・ケアと認知症ケアマッピング（DCM）基礎研修のご紹介

参加トレーナー：村田 康子（NPO 法人パーソン・センタードケアを考える会 代表）

桑野 康一（NPO 法人シルバー総合研究所 代表）

2018年3月7日（水） 18：30～20：00

浦和コミュニティセンター 第5集会室

埼玉県さいたま市浦和区東高砂町 11-1 浦和パルコ 10 階（京浜東北線 浦和駅下車徒歩 3 分）

参加費 1,000 円（定員 20 名） ※事前申し込みが必要となります。
申し込みは詳細は裏面へ。

パーソン・センタード・ケアとは

Person Centred Care

パーソン・センタード・ケアとは、1990年頃にTom Kitwood（トム・キットウッド：1937-1998）によって提唱された認知症ケアの考え方（価値基盤）です。当時、認知症をもつ人の症状は、脳の障害によって引き起こされるもので、認知症が進行すればよくない状態（ill-being）を経験することはしかたのないことだと考えられていました。しかし彼は、認知症の進行と本人がよい状態（well-being）を経験することとは連動しないと考えました。その人の心理的ニーズ^{*}を満たし、パーソンフッド^{*}を高めることで、認知症が進行してもよい状態を持続し得ると考えたのです。

※心理的ニーズ：認知症をもつ人たちの5つの心理的ニーズ 1.くつろぎ、2.アイデンティティ、3.愛着・結びつき、4.たずさわること、5.共にあること
※パーソンフッド：一人の人として、周囲に受け入れられ、尊重されること

認知症ケアマッピング（DCM）

Dementia Care Mapping

DCMは、パーソン・センタード・ケアを実践するためのツールです。具体的には、研修を修了したマッパーが、認知症をもつ人の状況を半日程度観察記録し、その人がどのようなケアを受けていて、どのように過ごしていたかをケアスタッフにフィードバックします。スタッフはフィードバックを、ケアの振り返りやケアの実践に活用します。

認知症ケアマッピングがもたらす変化

DCMを導入した多くの高齢者施設で、認知症をもつ人の心理的ニーズが阻まれるような出来事が減少し、心理的ニーズが満たされる機会が増加しています。また、DCMを実施することで、認知症をもつ人の焦燥（しょうそう）と呼ばれている行動を減少させたという研究報告もあります。DCMは、認知症をもつ人のよい状態を向上させ、チームケアや組織を発展させるために活用されています。

パーソン・センタード・ケアと認知症ケアマッピング基礎研修

英国ブラッドフォード大学が開発したコースです。欧州・米国、日本をはじめアジアでも開催されています。日本には、2004年に認知症介護研究・研修大府センターがパートナーとなり導入され、その後は日本人トレーナーによって研修が行われています。現在では1,400名をこえる方が基礎研修を修了しています。研修では、価値基盤となるパーソン・センタード・ケアの理念を身につけることを重視しています。介護職・医療職を問わず、認知症にかかわるすべてのスタッフ・チームを対象とした研修です。研修終了者には、認知症介護研究・研修大府センターが英国ブラッドフォード大学とのパートナーシップに基づき、認定資格証を発行します。

研修トレーナー

水野裕 日本ストラテジックリード（いまいせ心療センター副院長）、中村裕子（認知症介護研究・研修大府センター研修部主任 研修指導主幹）、村田康子（NPO法人パーソン・センタード・ケアを考える会代表）、住垣千恵子（国立長寿医療研究センター副看護師長）、鈴木みずえ（浜松医科大学地域看護学講座 教授）、桑野康一（NPO法人シルバー総合研究所代表）

参考文献

1. パーソン・センタード・ケアを実践するために 認知症ケアマッピング（DCM）って何？、認知症介護研究・研修大府センター、愛知（2015）
2. 水野裕監訳、中川経子訳：認知症とともに生きる人たちのためのパーソン・センタードなケアプランニング。クリエイツかもがわ、京都（2015）
3. DCM（認知症ケアマッピング）第8版マニュアル（第3版）、認知症介護研究・研修大府センター、愛知（2014）

参加申込書 送り先 FAX 050-3737-4902 (NPO 法人シルバー総合研究所)

お名前		住所 (自宅・職場) どちらかに○	
ご所属		電話	